

全国に広がる「漁民の森」



全国漁民の森サミット

漁民の森運動

●「森と川と海をつなぐ環境保全運動」
「漁業者の植樹」「漁民の森」運動

「森と川はと海はひとつ」を合言葉に

森と川と海は深くつながっていて、豊かな森が、川が、海に恵みをあたえています。命の海を守り豊かにするために、漁業者が山や海岸に苗木を植える植樹運動は、全国各地で展開されています。

漁業者の植樹運動は、海を生活の基盤としている漁業者が海の環境悪化と資源減少に強い危機意識を持ち「海を、漁場を何とかしたい」という願いが行動になったものです。

もちろん漁業者の植樹運動は豊かな森をつくる運動としては微力なものです。豊かな森づくりには森林組合はじめ、林業にたずさわる多くの皆様の力なしにはとうてい出来るものではありません。また、海までの河川流域の住民の皆様・国民の皆様と一体となった運動が必要であることはいうまでもありません。皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



毎年春に開かれている「森は海の恋人」植樹祭：岩手県室根山

1999/11/27 兵庫県漁青連・漁婦連、「漁業者の森づくり」植樹祭を開

兵庫県漁青連・漁婦連は11月27日(土)、揖保川の源流となる宍粟郡波賀町・フォレストステーション波賀において、「漁業者の森づくり」植樹祭を開催した。晴れ渡る青空の下、県内の漁協青年部・婦人部員とその家族を中心に、県・町、林業事務所、漁業関係者ら約100人が参加。ミズナラ、クヌギ、カシワの苗木200本を植樹、県内では初めての「漁民の森」が創設された。

開会にあたり主催者挨拶に立ったの成瀬知和県漁青連会長、大里千枝子県漁婦連会長は、「森林がつくる腐葉土にしみ込んだ水は、窒素、リン等が吸収され、魚介類の餌となるプランクトンや海草類を育てるのに必要な鉄成分などの栄養分に富んだ水(漁業用水)となり、この水の保全が豊かな漁場を育むのに重要な役割となっている。地道な活動ではあるが、次世代に豊かな漁場を受け継いでいきたい」と植樹活動の大切さをアピールした。続いて中田耕一郎波賀町長、稲田正治県水産課主幹が挨拶し、最後に戸田氏徳兵庫県漁連常務が、「この活動を第一歩として、県全域に植樹の輪を広げていきたい」と今後の展望を語った。その後、佐藤邦夫兵庫県山崎林業事務所課長より植樹方法の説明を受け、植樹へと移った。

Back Fishのロゴが入った青い帽子(資源管理グッズ)が配られ、慣れない手つきながらも1時間あまりで植樹を終えた。参加者は、「婦人部で水と森林について勉強したばかり。この活動が少しでも環境保全の役立ってくれたらと思う」「2・3年したら、またここへきて、成長を見てみたい」と、笑顔とともに感想が返ってきた。



線になることを祈って木を植える

終わりに、会場に立てられた「漁民の森」の看板除幕式を行い、記念にクヌギ、山桜等の木で作ったホルダーに名前を書き込み、苗木に添えて植樹祭を終了した。



[関連情報コーナー トップ](#)

[環境問題への取り組み トップ](#)

[浜の声 トップ](#)

最終更新日:平成11年12月2日

全漁連ホームページに関するすべての著作権は全漁連に帰属します。